



人材派遣のそちから

Potential Energy Of Manpower Dispatching

2025年7月吉日

(株)コメット社内報

第86号

文責：長谷川



涼風の 曲がりくねって きたりけり ~小林一茶~

時の流れは早いもので、2025年も半分が過ぎ、暦は7月に入りました。少しでも早く鬱陶しい梅雨が明けて、カラッとした天候が続くイベント日和のシーズンになってほしいものです。ただ、まだ本格的な夏の暑さに体は慣れていない状態なので、特に「熱中症」には注意してください。

さて、今回の社内報では、誰もが経験したことがある煩わしい「口唇ヘルペス」についてまとめてみました。

とても煩わしい!口唇ヘルペス。新しい治療法が有効!



唇やその周辺に小さな水疱ができる「口唇ヘルペス」。近年は再発に備える新しい治療法が広まってきています。

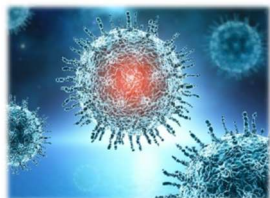
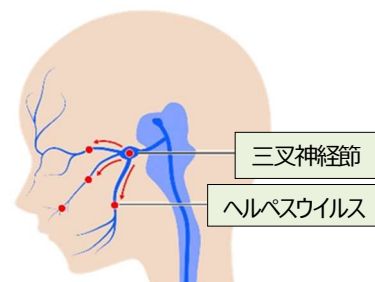
【原因と症状】

口唇ヘルペスは主に単純ヘルペスウイルス1型(HSV-1)の感染が原因となる病気です。

唇やその周辺に、軽い痛みを伴う小さな水疱ができるのが典型的な症状です。

水疱がプツプツとできた後、1~2週間ほどでかさぶたとなって治っていきます。

HSV-1は一度感染すると、主に顔の感覚を司る神経が集まる部位（三叉神経節）に潜伏し続け、免疫力が低下した時などに再び活性化して症状を引き起こします。風邪や疲労、睡眠不足、忙しい時や強い紫外線を浴びた時など、肉体的・精神的ストレスが再活性の誘因となります。



口唇ヘルペスは再発を繰り返しやすい、症状がいつ出るかわからない不安や、人の目につきやすい苦痛などでQOL（生活の質）を低下させる側面もあります。

成人してからHSV-1に感染した場合は初発時の症状が重なりやすく、発熱や倦怠などを伴うことがあります。アトピー性皮膚炎など皮膚のバリア機能が低下している人は、水疱が顔や体にも広がるカボシ水痘様発疹症になることがあります。

【治療と予防】

口唇ヘルペスの治療は、HSV-1の増殖を抑える抗ウイルス薬の内服が基本です。症状に気付いたら、なるべく早い受診が勧められます。通常は薬剤により1日2回もしくは3回、5日間服用します。市販の外用薬もありますが、使用は再発で軽症の場合に限られます。再発を繰り返す人は、水疱などの症状が出る前兆として、ピリピリ、チクチクといった違和感に気づくこともあるはずです。医師に口唇ヘルペスと診断されていて、この前兆が分かる場合は、「PIT」と呼ばれる新しい治療法が有効だそうです。PITは次の再発に備えて都合の良い時に受診し、治療薬を処方しておいてもらい、前兆を感じたらすぐに服用することで、水疱などの症状を軽減したり、治るまでの期間を短くしたりすることができる治療法です。2019年に「ファムシクロビル（製品名ファムビル）」が、2023年に「アメナメビル（製品名アメナリーフ）」が保険適用となっています。

ファムビルは1年に3回以上再発する人が対象で、前兆を感じてから6時間以内に4錠、12時間の間隔を空けてもう4錠服用します。腎機能が低下している人は、服用量の調整が必要です。アメナリーフは再発頻度や腎機能は問わず処方が可能で、前兆を感じてから6時間以内に1回だけ6錠を服用します。薬の費用は3割負担の場合でファムビルが770円程度、アメナリーフが2200円程度となっています。口唇ヘルペスの再発を繰り返し煩わしい思いをしている人は、かかりつけ医や皮膚科医にPITについて相談してみてください。



症状が出ている時の注意点

- ・水泡に触れたり潰したりしない。触れた時は手をよく洗う。
- ・マスクをしておく。
- ・乳幼児との接触をなるべく避ける。
- ・仕事や生活で無理をせず、心身を休める。



口唇ヘルペスは、水疱に触れるほか唾液などを介して感染します。日本人の大半が成人するまでに、このウイルスに感染していると考えられますが、初感染時には症状が出ないことも多いそうです。

症状が出ている時は人にうつさないためには、十分な配慮が必要です。特に重症化しやすい乳幼児との接触はできるだけ避けなければいけません。水疱に触らないようにし、触れた場合は手をよく洗いましょう。マスクの着用も有効です。まずは十分な睡眠や休息を取るなど、心身を休めることが大切です。（日経新聞コラム参照）

編集後記

7月の祝日といえば第3月曜日の「海の日」です。2025年は7月21日（月）が「海の日」となります。海の日は、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」という趣旨で、1995年祝日に制定されました。初めは7月20日でしたが、「ハッピーマンデー制度」により、2003年から「7月の第3月曜日」を海の日とする形が定着しました。国土交通省によると「世界の国々の中で『海の日』を国民の祝日としている国は唯一日本だけ」とのこと。海に囲まれ、海の恩恵をうけながら発展してきた日本ならではの祝日といえます。

